

先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）

中間評価結果

機関名	東海国立大学機構
事業概要	機構の強みを活かし、「ガバナンス強化」、「設備・機器共用体制強化」、「人材育成強化」、「国際連携強化」を通じて、設備・機器の戦略的かつ持続的な更新・修理や人材育成を実現し、我が国の研究開発をリードする理想的なコアファシリティを確立する。
評定（総合評価）	コメント
A	<ul style="list-style-type: none"> ・総合大学におけるコアファシリティのガバナンス体制についてモデルとなる事例を提供している。 ・複合的な研究の支援に対応できるマネジメント人材の育成が効果的に行われている。 ・機構長自らがリーダーシップを発揮する体制が構築され、独自の技術職員によるマネジメント職であるコアファシリティアドミニストレーター（CFA）が有効に機能していることが大きな成果である。 ・機構内外の国際拠点との連携強化、機構外組織等とのネットワーク形成・連携推進等については、今後検討が望まれる。
評定（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・統括会議の設置によるガバナンスの強化、設備・機器共用体制強化、人材育成強化、国際連携強化などを着実に戦略的に実現している。今後は資金計画の強化が望まれる。 ・CFAが活動内容のみならず組織の象徴として存在感を示しており効果的である。 ・2つの大学を統合させた効果（卓越した研究成果の創出など）がより発揮されることが望まれる。
② 経営戦略	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・設備マスタープランに、経営戦略における研究設備・機器群の整備・運用・共用に係る方針を適切に位置付けて公表し、運用している。機構の方針を実現する上で研究基盤の課題を適切に捉え、効果的な対応が取られている。 ・大学間をまたがるコアファシリティ構築という課題に対し、今後どのように推進するか期待したい。 ・持続性の観点から、民間企業からの更なる資金導入を期待したい。
③ 実施体制・仕組み	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・機構役員会に統括会議を設置し、機構長が自らリーダーシップを発揮する体制が構築されている。組織全体の運用ルールや利用料金算定方法についても基準がある。 ・CFAが共用装置の状況を調査し共用をより強力に進めるための役割を担っている。 ・東海地域の強みを活かした民間企業との取組を期待したい。

④ 人材育成	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・CFA とコアファシリティ重点運用機器を担う技術職員のマネジメント能力の養成に注力している段階であるが、着実な成果が上がっており、他機関にも大いに参考になる事例を提供している。 ・今後は測定、分析以外の技術職員の育成への展開、技術職員全体としての人材育成・キャリア形成、モチベーションアップに資する評価の透明化などに期待したい。 ・強みを維持・発展させるために、CFA の採用・育成の新たな仕組みなどを検討してはどうか。
⑤ 資金計画	コメント
b	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で当初計画通りに進んでいない事情は理解できる。 ・コアファシリティ重点運用機器は収益をあげつつある。 ・事業の継続性については、大学債の発行など、具体的計画に着手している点は評価できる。戦略的に企業を呼び込み、大学債を不要とするなどの中長期戦略が策定できれば理想的である。 ・大手かつ競争力を有する東海地域企業の誘致に積極的に取り組むことを期待する。
⑥ その他の政策との連携	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・特に人材育成面で他機関との多くの連携が図られている。CFA の育成とともに、分野融合等への支援体制も飛躍的に向上している。 ・今後、より積極的な、外部資金導入に繋がるようなイノベーション創出、産学連携、スタートアップ支援等の取組と成果を期待したい。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
a	<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度、3年度採択校等と連携した取組を進めており、評価できる。今後、オールジャパンの取組として中心的な役割を果たされることにも期待したい。 ・両大学の連携による相乗効果が見えず、今後より積極的な取組と成果が期待される。 ・外国人・留学生対応を積極的に進めている点は、他大学より優れている。 ・より国際的な組織連携を強く求めたい。
備考	なし